

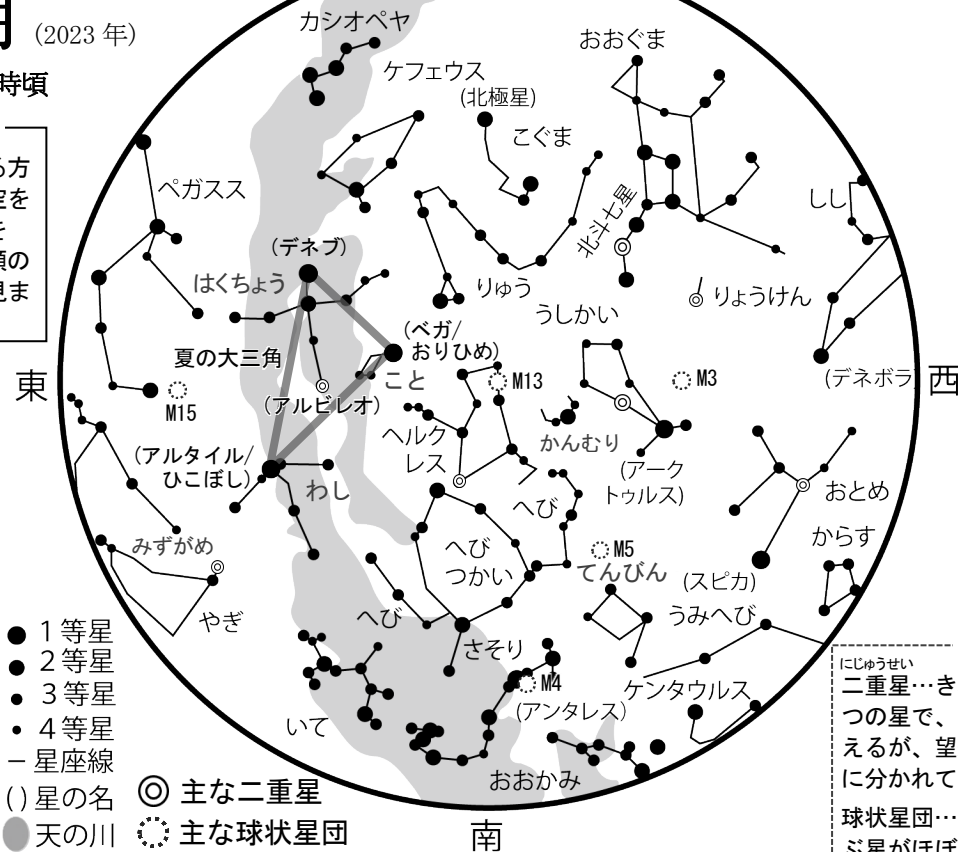
今月の星空

7月 (2023年)

中旬 21 時頃

星図の見方

自分が見ている方角を下(東の空を見るときは東を下)にして、頭の上にかざして見ます。



- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星
- 星座線
- () 星の名
- ◎ 主な二重星
- 天の川
- ⊙ 主な球状星団

天文用語
二重星…きわめて接近している二つの星で、主に肉眼では一つに見えるが、望遠鏡などで見ると二つに分かれて見える。
球状星団…数十万から百万にも及ぶ星がほぼ球状に密集する星団

月 齢 ○満月 3日、●下弦 10日、●新月 18日、●上弦 26日

惑星情報

金星 日の入り後 西(しし座 -5等→-4等) 木星 日の出前 東(おひつじ座 -2等)
火星 夜のはじめ頃 西(しし座 2等)※中旬まで 土星 真夜中 南東(みずがめ座 1等)

★最大光度の金星と七夕の輝星

昨年の冬頃から夕方の西の空で見えていた金星(宵の明星)は、7日に最大光度(-4.7等)となり、日中でも肉眼で見えるほどの輝きを放ちます。ただし、その後は8月13日の内合(太陽と同方向に位置する)に向けて高度が下がり見づらくなります。内合後は太陽の反対側(西側)へと移り、明け方の東の空で見られるようになり、「明けの明星」と呼ばれます。

その一方で、東の空高く昇ってきたのは、こと座のベガ。夏の星座で最も明るい0.0等で輝き、この時期では、西の空のアルクトゥルス(0.0等)に並ぶ明るさです。このベガは、中国から伝わった七夕の織姫星(織女星)です。ベガに続いて、彦星(牽牛星)にあたる、わし座のアルタイル(0.8等)とはくちょう座のデネブ(1.3等)が昇り、この3つの星で夏の大三角となります。星図のとおり、織姫星と彦星の間には天の川があります。

★夏休みにチャレンジ!~実際に天の川やたくさんの星を見てみよう~

山や海など街明かりの少ない地域へ出かける機会が増える夏休み。天候などの条件次第では実際に七夕物語の舞台でもある天の川を見ることができるともかもしれません。以下を参考にしてみてください。

(1) 天の川の位置を確認しよう…夏の大三角のはくちょう座が目印です。十字の並びのデネブーアルビレオ(3.1等)のラインの延長線を意識し、その先は、南にさそり座、北にカシオペア座があります。

※事前にプラネタリウムで天の川のイメージや目印の星の位置を確認すると良いでしょう。

(2) 月明かりの影響をさけよう…新月(7/18、8/16)の前後5日間ほどがおすすすめ。この期間は、月は細く欠けた状態です。新月前であれば、月の出は夜中以降となり、新月後は早い時間に月が沈みます。

(3) その地域の街明かりの影響を調べよう…参考サイトは以下のとおり。

光害マップ「Light Pollution Map※」 <https://www.lightpollutionmap.info/>

※英語サイト。アメリカの気象衛星のデータ等から作成された光害マップ。